

植物多様性センターの「マンリョウ」

日本では正月の縁起植物のマンリョウですが、フロリダでは繁殖力の強さから侵略的外来種とされています。強さの秘密は葉の丸い鋸歯の間の葉瘤ようりゅうにあります。葉瘤には葉粒菌が共生し空気中の窒素を固定しています。マメ科の根粒菌と同じです。この葉粒菌、葉の先端や芽の中にもあり、感染して新しい枝や葉に移り、更に花や実を経て種子にも垂直感染し次世代に受け継がれます。一方で果肉には発芽抑制物質が含まれ赤い実のままで発芽しません。ヒヨドリ等が啄みついば果肉を消化して排泄され、初めて発芽可能になります。



正月に欠かせないマンリョウ
鮮やかな赤い実が鳥を誘う



赤い果皮と果肉を除いた種子
手鞠の様な模様がある



鋸歯が盛り上がり瘤になる
中には空間があり葉粒菌が共生



花(7月撮影)
多数の腺点が見られる